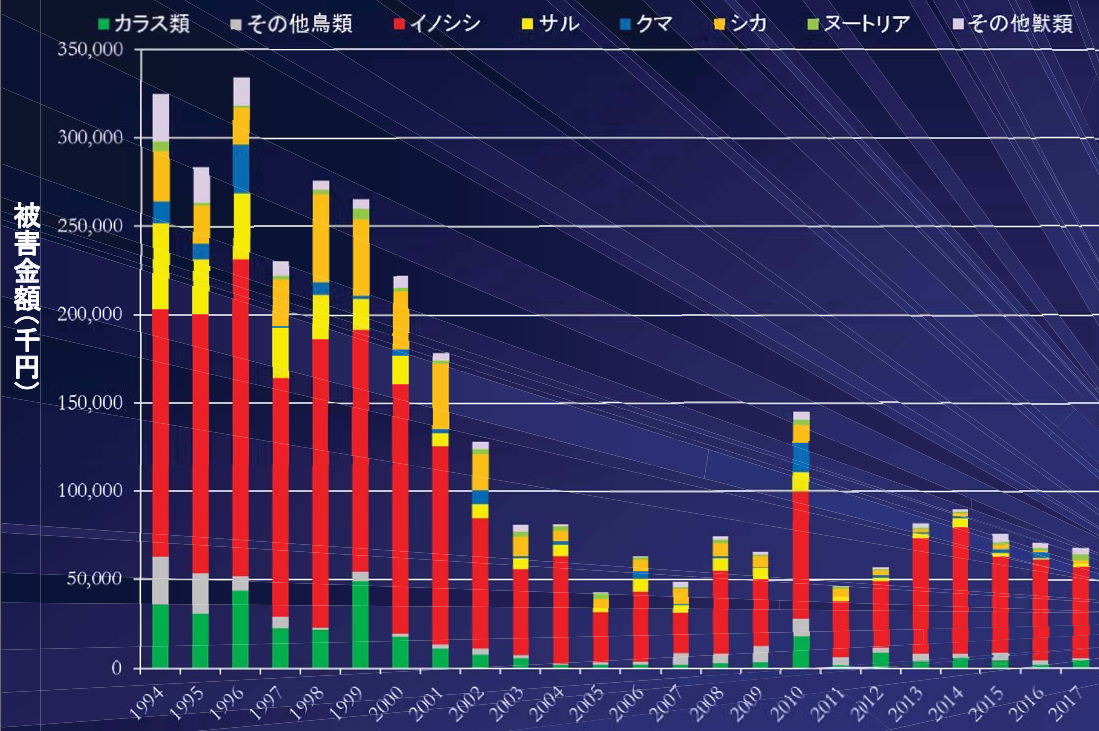


島根県における鳥獣専門指導員の 配置による鳥獣被害対策



澤田 誠吾（島根県中山間地域研究センター）

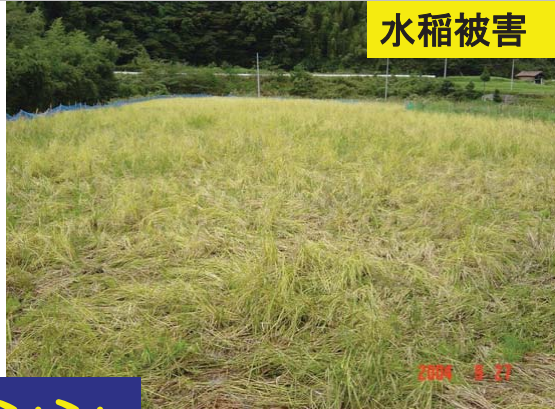
島根県における鳥獣類による被害金額の推移



タケノコの食害



水稻被害



イノシシ

ダイズの食害



法面の掘り起し



森林の土砂流出



角こすり剥
皮害



ニホンジカ

シュンギクの食害



イネの食害



タマネギの食害



トウモロコシの食害



ニホンザル

ハクサイの食害



無臭ニンニクの食害



ミツバチの被害



クリ園食害



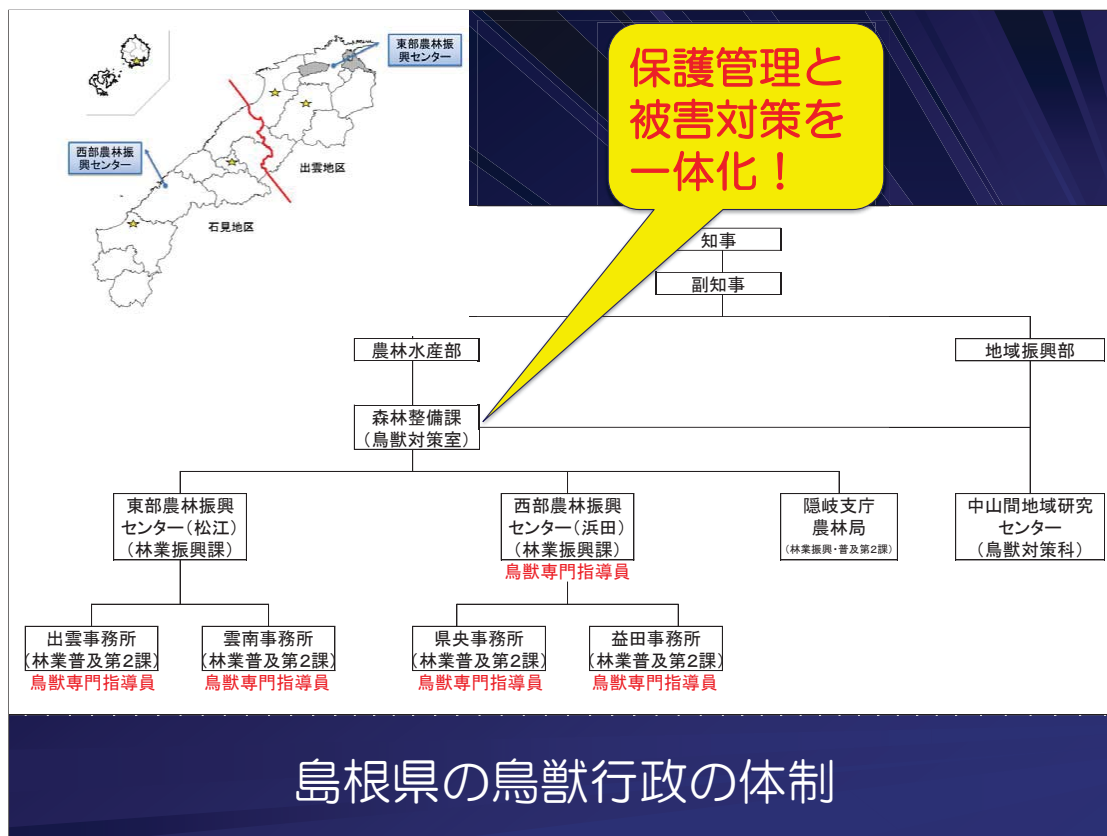
ツキノワグマ

カキの木の食害



濃厚飼料の食害





島根県の鳥獣行政の体制



担当者会議と学習放獣の技術研修



H25年度から林業部と農業普及部が連携して鳥
対策をスタート



鳥獣専用車（通称クマ車）

鳥獣専門指導員を設置した背景

【2004年当初の設置目的】

おもにツキノワグマの保護管理の推進のため。

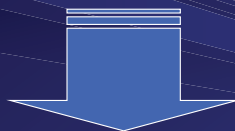
- ① 錯誤捕獲個体の放獣作業の技術的能力
- ② 緊急対応時の正確な判断
- ③ 普及啓発活動の推進



行政と現場の両方の課題を理解し、クマの被害対策等の知識・技術を持ち、経験に基づいたクマの保護管理を推進できる人材が必要

鳥獣専門指導員を設置した背景

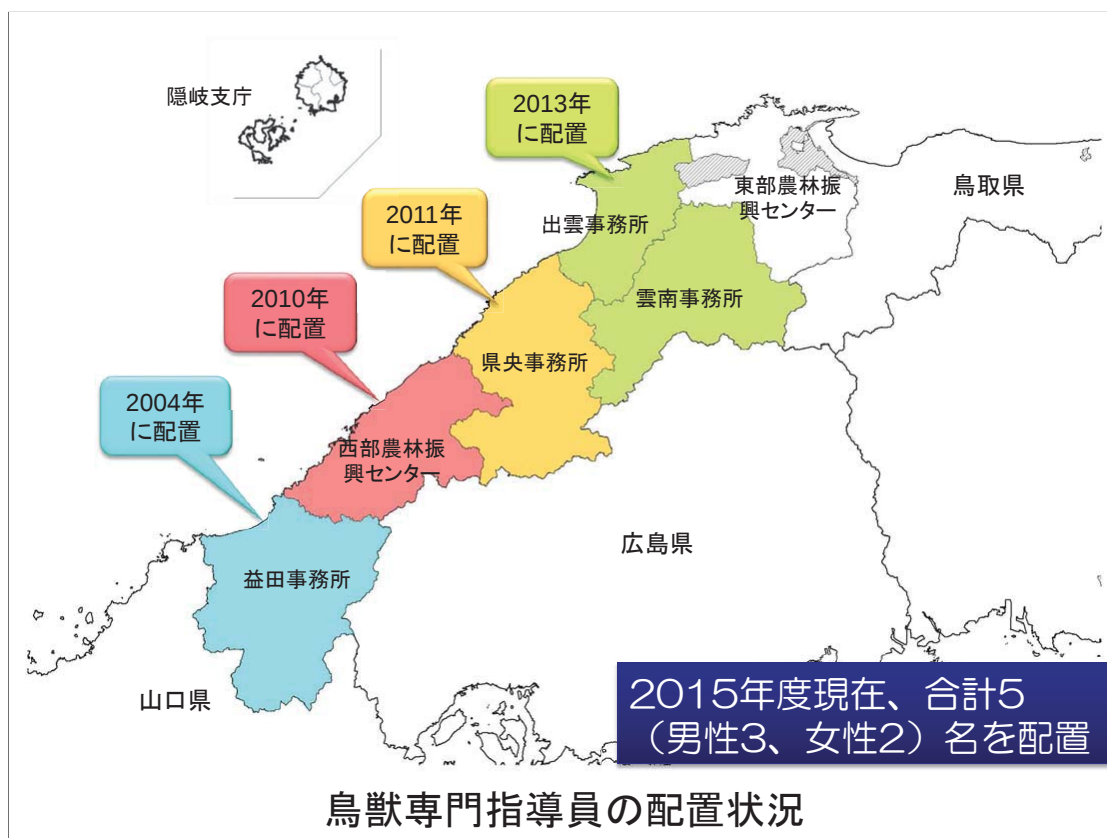
- ① 県職員の異動（約3年ごと）
→ 知識・経験がリセットされる
- ② 行財政改革に伴う正規職員数の減少



鳥獣専門指導員（非常勤嘱託職員）を採用

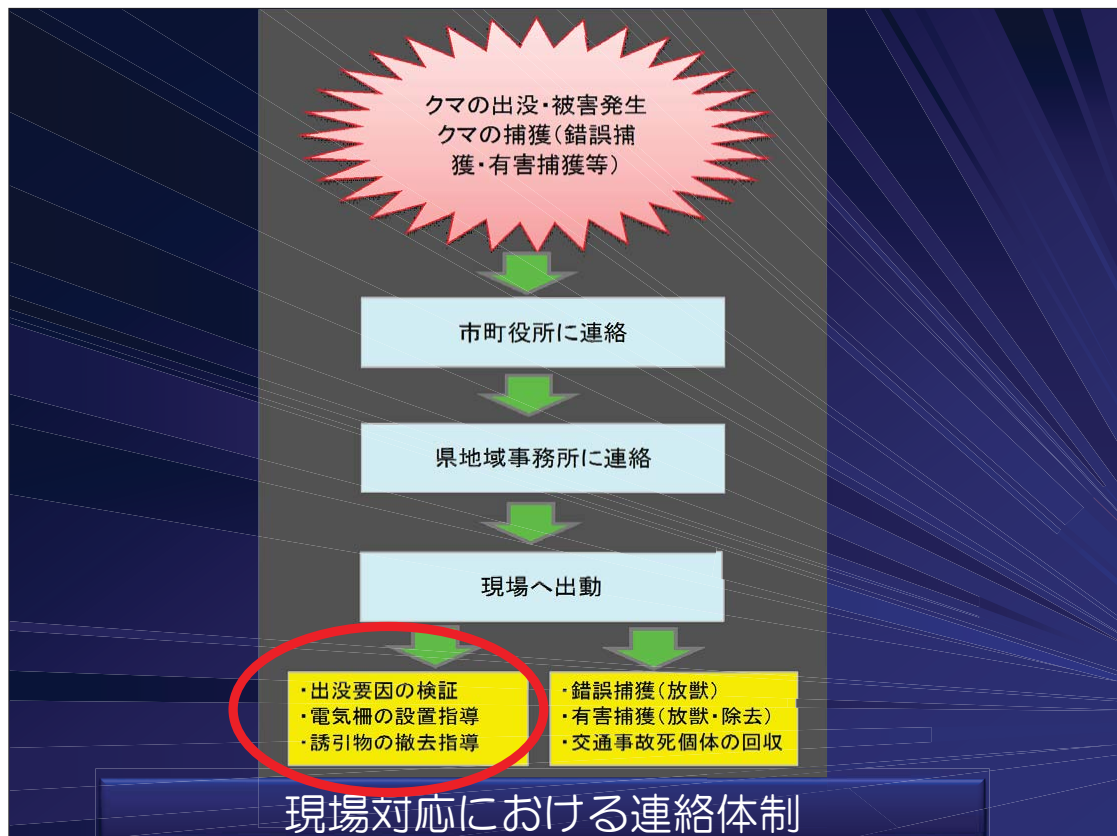
鳥獣専門指導員の身分と採用

- ①身 分 非常勤嘱託職員（月16日勤務）
- ②任用期間 1年（通算5年を上限として更新可能）
- ③試 験 一般公募での採用試験（面接）
（全国各地からの応募者あり）
- ④受験資格
 - ・ 普通免許自動車運転免許を所持
 - ・ 自然環境系、生物系の大学や専門学校卒業
- ⑤採用後の研修 中山間地域研究センターにおいて2か月間の研修後に担当地域の出先事務所へ配置



鳥獣専門指導員

- ・中山間地域研究センターで2か月間の研修をして各地域に配属。
- ・イノシシ、サルなど各獣種の鳥獣対策の指導。
- ・とくに、住民へのクマの生態や誘引物除去等の普及啓発などを実施。錯誤捕獲等の放獣対応。
- ・豊凶調査などのモニタリング調査、研修会





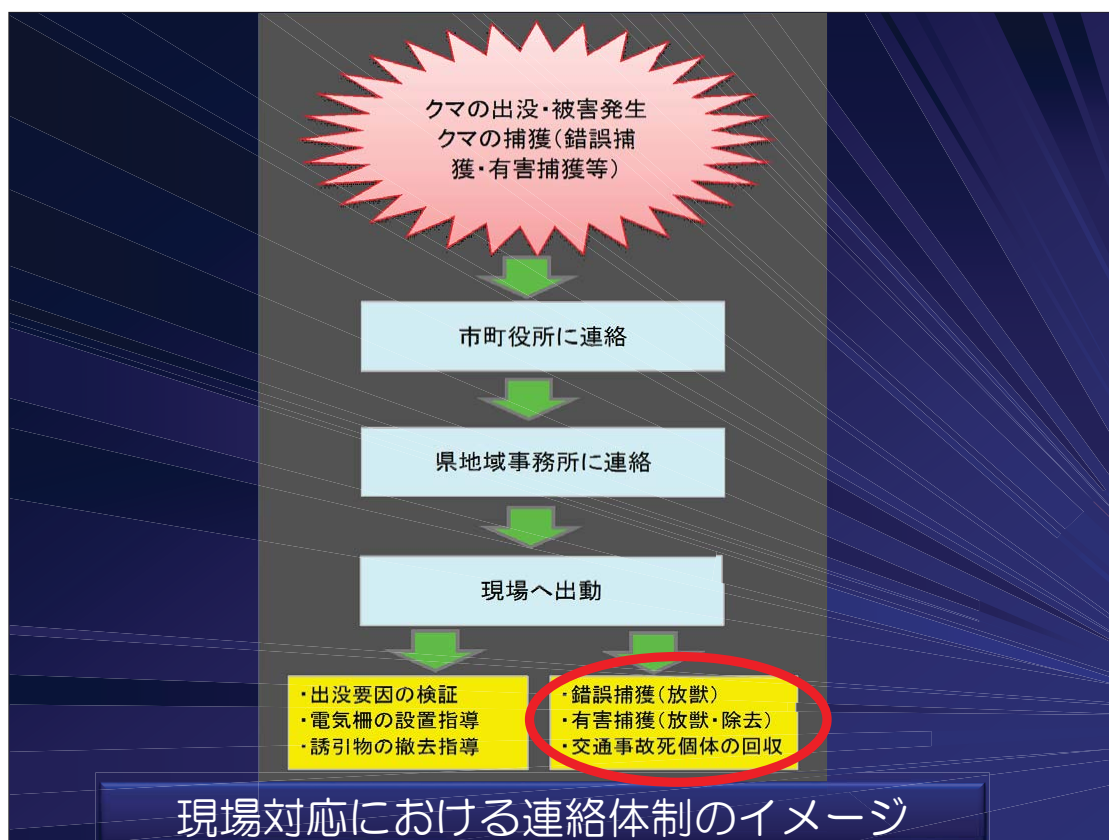
誘引物の除去



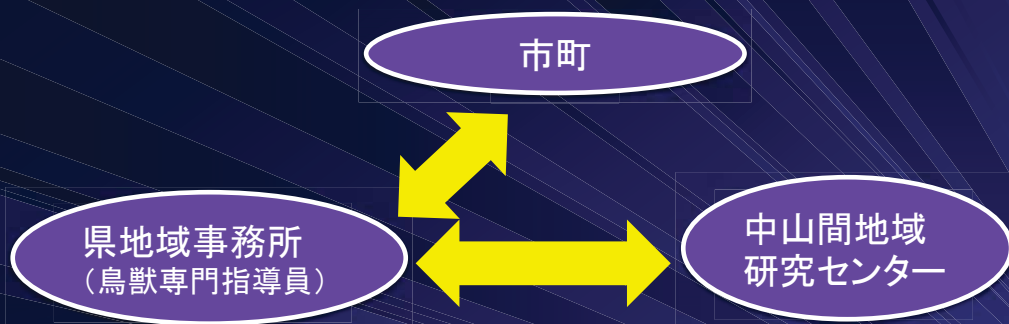
現地での対策指導



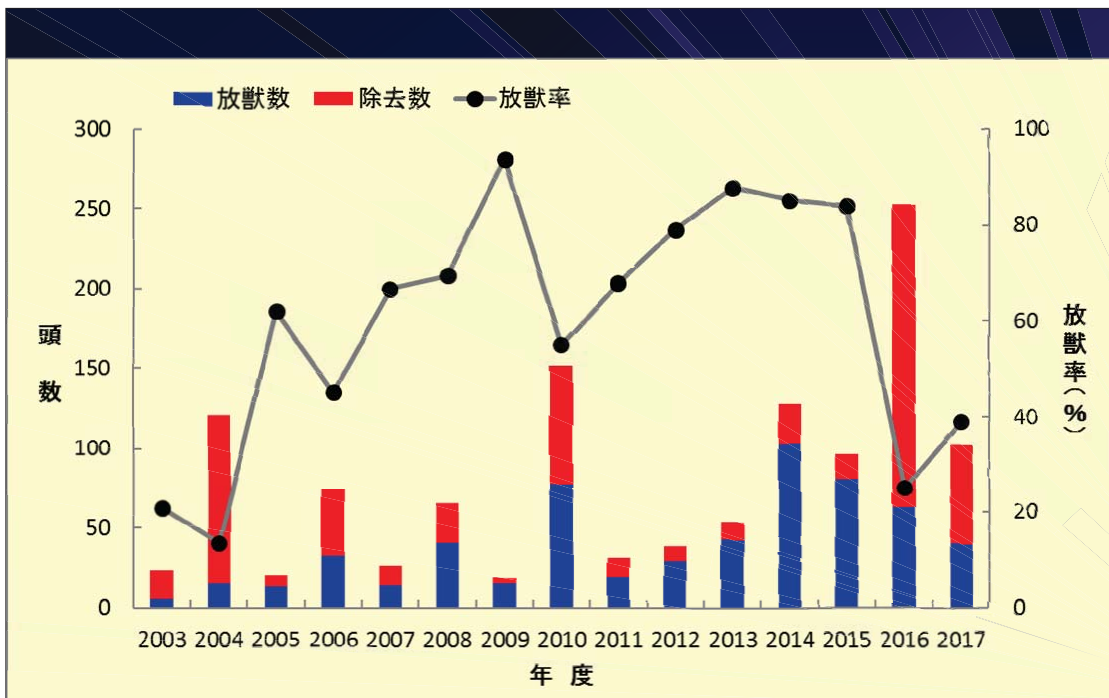
電気柵の設置指導



錯誤捕獲・有害捕獲等の対応

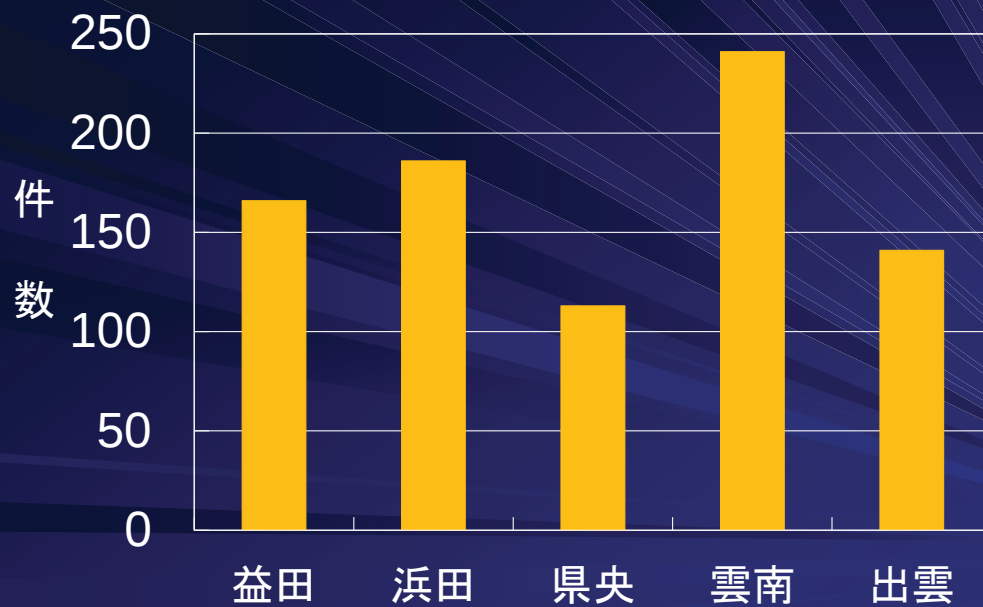


土日、祝日は当番制で対応。

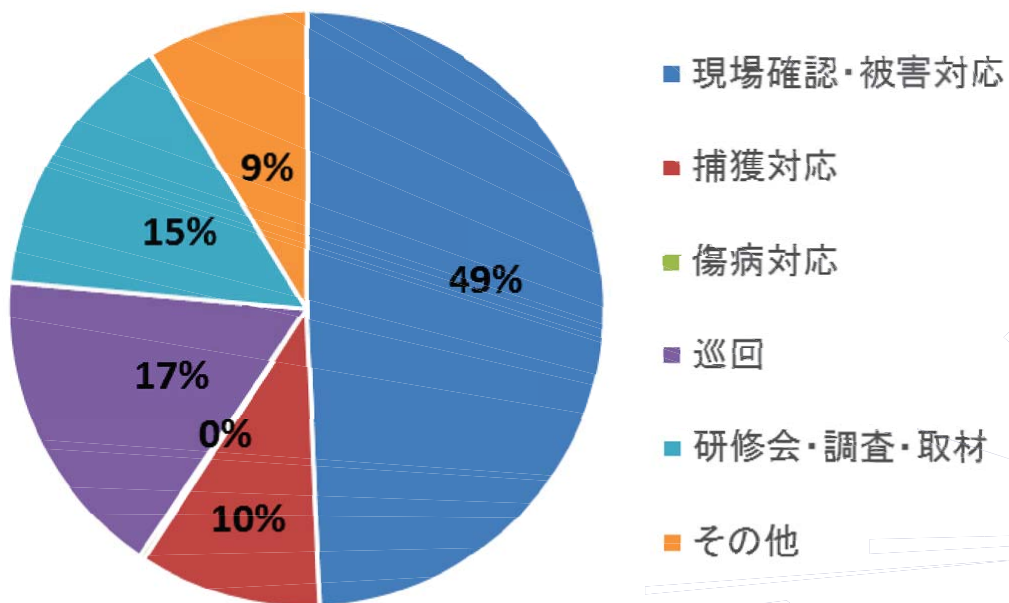


年度別の放獣数、放獣率および除去数の推移

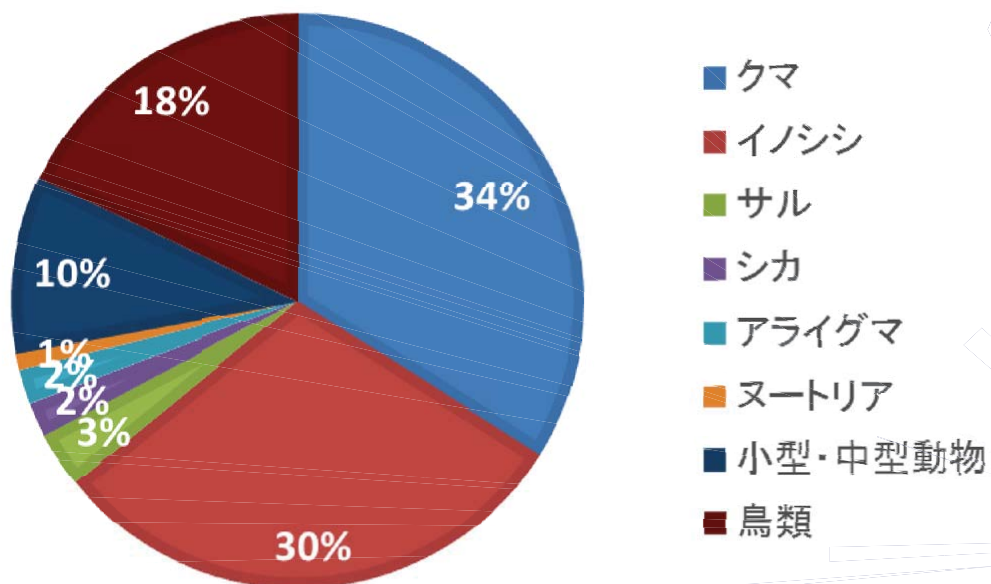
鳥獣専門指導員の地域別の対応件数



鳥獣専門指導員の対応内容(%)



対応した鳥獣種の割合(%)



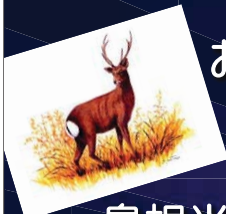
何でもしてくれる便利屋さん・・・？。

被害対策等の相談，助言，指導，啓発，調査



鳥獣専門指導員の役割

当初の目的は、
おもにツキノワグマの保護管理対策



島根半島の二ホンジカ、外来生物の生息拡大
他の鳥獣による被害も依然として発生



鳥獣の被害対策の全般に対応



現場での普及啓発活動

現場密着の鳥獣専門指導員の必要性

- ・被害発生があれば現場に駆けつけるフットワーク。
- ・現場対応時は市町担当者と一緒にいて情報を共有。
- ・地域住民の信頼を次第に獲得。

鳥獣類の保護管理や被害対策に現地で専門的に対応できる人材の配置はきわめて有効。